

事業評価個票

やまがたの山と水魅力向上推進事業費

部局名	環境エネルギー部
-----	----------

短期アクションプラン	テーマ	テーマ6 再生可能エネルギーによる産業振興と地域活性化、国内外に誇れる優れた環境資産の保全・創造・活用						
	施策	施策2 国内外に誇れる優れた環境資産の保全・創造・活用						
	目的	県土の7割を占める豊かな森林資源や湧水等の水資源など、県民にとって貴重な財産である自然環境を守りながら、地域の産業や暮らしに活かし、次世代につないでいく。						
	目標指標(H32)	自然公園利用者数(単年度)		14,000千人				
	策定時の実績	11,255千人(H27)	現状	11,255千人(H27)	主要事業	(1)豊かな環境を守り、活かす自然共生社会の構築		
事業名	やまがたの山と水魅力向上推進事業費			担当課・担当	水大気環境課 水環境担当 みどり自然課 自然公園担当			
事業開始年度	平成29年度			事業終了(予定)年度	未設定			
事業の目的	本県の豊かな山岳資源と湧水の魅力を広く内外に発信し、地域の保全活動の促進や観光資源としての活用につなげ、地域に活力を引き込んでいく。							
事業概要	<p>1 山岳資源の多様な活用と受入態勢の充実</p> <p>(1)「やまがた百名山」の積極的な発信…①大手山岳誌とタイアップしたプロモーション、②登山ルートのグレーディングの設定、③「やまがた百名山」ガイドブックの出版(監修協力)、④「やまがた百名山」となった身近な里山の保全や利用促進の取組みに対する助成</p> <p>(2)その他情報発信の強化…①山岳情報サイト「やまがた山」の充実、②写真コンテストの実施、③山岳団体が行う三大都市圏でのPR活動への助成、④民間との連携を図るネットワーク会議の開催</p> <p>(3)登山の受入態勢の整備…①山岳団体が行う山岳ガイドの養成への助成、②鳥海山、月山の利用者の多い木歩道の整備、③地元山岳会等との協働(資材提供)による迅速な登山道等の応急補修</p> <p>2 名水の選定と地域活性化への活用</p> <p>「里の名水・やまがた百選」の選定、パンフレットの作成、水質フォローアップ調査、アドバイザー派遣</p>							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:優れた地域資源を保全し、観光資源として活用していくためには、官民が連携して対応していく必要							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度		
	百名山プロモーション、グレーディング、ガイドブック			8,791				
	百名山環境保全活動への助成			2,000				
	その他情報発信の強化			1,044				
	登山受入態勢の整備			4,455				
	「里の名水・やまがた百選」の選定			2,224				
	パンフレットの作成			2,003				
	水質フォローアップ調査			674				
	アドバイザー派遣			237				
	計	0	21,428	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金		1,150					
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源			20,278	0	0	0	
	計	0	21,428	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	「やまがた百名山」環境保全活動への助成件数(単年度)	活動実績 件		22				
		当初見込み 件		20	20	20	20	
	「里の名水・やまがた百選」の新規選定箇所数(単年度)	活動実績 箇所	10	10				
		当初見込み 箇所	10	10	10	10	10	
	成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
山岳観光地の観光者数(山形県観光者数調査)(単年度)		成果実績 千人	916	集計中				
		目標値 千人	920	940	960	980	1,000	
		達成度 %	99.6	-				
関連事業 (単位:千円)								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

全国的に、登山・トレッキングがレジャーの一角に定着している中において、本県には、気軽にトレッキングが楽しめる山岳から本格的な登山者を魅了する山岳まで、各地に自然を満喫できる貴重な山岳資源があり、観光資源としても高いポテンシャルを有しているが、最近では日本アルプスなどブランド力のある山岳に人気が集まる傾向にあり、他県の山岳観光地域と比べて本県山岳地の全国的な知名度は高いとは言えない。また、県内の地域の人々に育まれてきた優れた湧水についても、地域活性化の資源はもとより、観光資源としての価値を高めていくことが必要。

本事業では、本県山岳や湧水の魅力をさらに磨き上げ、その魅力を積極的に発信し、県内外における本県山岳や湧水のブランド化を進めていくことで、本県山岳や湧水が観光資源として活用されることにつながるから、積極的に取り組むべき事業である。

目標値は、現時点で把握できる本県山岳に関する唯一の調査である「山岳観光地の観光者数」について、これまでのトレンドに積極的な情報発信による観光者数の増を加味して目標値を設定した。

事業所管部局による評価・検証(平成 年度)

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	・登山やトレッキングなど山に親しむ人々が増えている中、本県の豊かな山岳資源を積極的に発信するとともに、登山環境の整備など受入態勢整備に取り組むことは、山岳観光の振興につながるから重要であり、優先度が高い事業である。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	・「里の名水」を選定し観光資源として磨き上げることも、本県の豊かな環境を守り活かす自然共生社会の構築の観点から重要であり、優先度が高い事業である。
	目標水準は妥当か。	A	・情報発信の強化により、山岳情報サイト「やまがた山」へのアクセス数が前年比2.4倍となるなどの成果が得られた。
	期待する成果が得られたか。	A	・「やまがた百名山」環境保全活動への助成により、新たに多くの地域団体の取組みがあったほか、山岳の木歩道整備は利用者の利用の安全につながった。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	・「やまがた百名山」環境保全活動への助成については、広く公募適切に審査した上で選定しており妥当である。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	・事業費については、事業実施に必要な不可欠な費用に限定しており妥当である。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	・当部は山岳資源や名水の情報発信、受入態勢整備、観光部局は誘客事業と適切な役割分担を行っている。
役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・県で行うべき事業は全県的な山岳情報の発信や「里の名水」の選定・磨き上げ等とし、地域の保全活動など市町村・民間等で取り組むべき事業については助成等により支援を行うなど適切な役割分担を行っている。
	今後の課題		・本県の山岳資源や湧水を観光資源として広く県内外に知らしめるため、引き続き、積極的な情報発信に取り組んでいく。

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。
 A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
 B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
 C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
 -: 該当しない